

1 はじめに

(1) GAPとは

GAPとは「Good Agricultural Practice」の略で、日本語にすると「よい農業の手法」となります。つまり、「農業生産を行う上で、その活動に関わる人・物・場所・行動を適正に管理し、農産物や労働者、環境に対して安全を確保していこう」という手段をGAPと言います。

よって、GAPは日頃からの取り組みが全てであり、安全安心を確保するために、整理整頓や衛生管理、労働環境や持続可能な農業生産に向けた配慮が必要です（GAPをする）。これらを管理する工程をまとめていくのが認証取得に向けた動き（GAPをとる）となります。

Good Agricultural Practice

良い

農業の

手段(手法)



資材の整理



環境保全



作業管理

(2) 農業生産にかかわる「安全安心」

安全で安心な農産物とは何か？農薬の使用量が適切である、「顔」の見える農産物であること、衛生的な環境で栽培されているなど数々あります。では、これを保証するものは何でしょうか？

安全・安心とは農産物生産にかかわる危害(リスク)を適正に管理することで実現できるものであり、GAPの工程はこれを明確に管理・記録・掲示したり等「見える化」することで安全安心な作業の標準化・平均化を図ることができます。

世界的に見てもGAPの考え方は広まりつつあり、大手スーパーマーケット等では取引の際の条件にするところもあり、併せて近年のオリンピック・パラリンピックにおいては食材調達基準の1つとなっています。また日本の人口減少、世界的な人口増加が叫ばれる今日、日本の農業生産も世界のマーケットへ目を向ける必要も出てきています。

農産物の目に見える安全安心の保証手段としてのGAP手法は農業経営を始める前、今、農業高校で学んでいる間に理解しておく、この先の糧となります。



(3) GAPをすることのメリット

①農産物にかかわるリスクを管理できる

農産物生産を行う上で、安全にかかわる多くのリスクが内在します。農薬の残留はもちろんのこと、異物混入や目には見えない微生物、また人為的なリスクもあります。生産活動に関わる一連の流れからリスクを洗い出し、これらを適切に管理することで食品事故が発生する危険性を軽減できます。

農産物に関わるリスク(例)

- ・物理的危険 → 異物混入
- ・生物的危険 → 食中毒菌汚染
- ・化学的危険 → 残留農薬
- ・アレルギー → アレルギー物質など



②労働にかかわるリスクを管理できる

労働に関わるリスク(例)

- ・労働災害 → 農業機械事故
- ・衛生状態 → 不衛生な環境での労働
- ・作業免許等 → 無許可作業
- ・労働条件 → 過酷な労働環境・勤務体系など



人が安全に、衛生的な環境で働いているということは、よい農産物を生産する上で必須です。不衛生な環境下での労働、人権を考えていない条件での作業、無免許作業や、業務内容に関わるトレーニングを受けていない労働で、よい農産物は生産されるはずありません。

また農作業による事故が起きるとその人の生命・人生に大きく影響するのはもちろん、食品の安全や農業経営の存続にも関わる問題となります。GAPで労働環境を適正に管理すること、さらには作業者・経営者間での円滑なコミュニケーションで、より良い農業生産、持続可能な農業経営につながります。

③持続可能な農業生産を実現できる

GAPでは資源管理も重要となります。農業生産を行う畑(健全な土)や、生産に必須の水は限りある地球の資源です。必要以上の肥料養分の投入は塩類集積をもたらしたり、水の無駄遣いは世界的に見ると資源の枯渇を生みます。GAPでは、生産活動に投入する資源量の根拠も求められます。環境に配慮した、持続可能な農業について深く考えることができます。

*資源の考え方(水の事例)

私たちにとっての「水」

- ・日本は4方を海に囲まれ、川も流れ、水資源に富んだ国。
- ・地方によっては用水路等整備され、農業用水は潤沢。
- ・水不足等で悩むことは無い。

世界の農業生産における「水」

- ・枯渇資源
 - ・生産に必要な水を最小限に抑える必要がある。
 - ・農業における水資源は大きな問題。
- (バーチャルウォーターなど)



大きな隔たり

④経営改善につながる

肥料や農薬を使用するには「お金」が必要です。しかし、在庫を確認しないで購入することで大量に残ったり、さらに期限切れとなり廃棄しなければならなかったりすることがあり

ます。これは明らかに「お金の無駄」です。GAPでは在庫管理、費用削減を図り、必要以上の資材を購入しなくても良い状態になります。

⑤作業の平均化を図ることができる

農業生産活動において、熟練の農家は自らの感覚を持ち、美味しく、高品質な物をつくり上げます。まさに「職人技」です。しかし、その方が農業経営において永遠に作業し続けることは難しく、技術や手法を伝承していかないと持続的な農業生産が確保できません。GAPは各種作業の手順や基準を「見える化」します。

灌水の方法、追肥の時期などこれまで「こだわり」であった細かなものまで数値化することで、誰しものが同じレベルで作業にあたることを実現します。

*作業の「見える化」

熟練者の指示(例)

「下葉を少しかいてくれ!」

「水を少しだけやってくれ!」

「液肥を濃い濃度で与えてくれ!」「ハウスを少し開けてくれ!」



「見える化」すると・・・

「下葉 3 枚ずつ取ってくれ!」「水を1畝5分ずつやってくれ!」

「液肥を500倍で与えてくれ!」

「ハウスを印のところまで開けてくれ!」



⑥付加価値化を図る手法ではない

GAP認証は費用がかかります。併せて審査に当たっては多くの苦勞もあります。「GAPを取ることで高く売れるの?」と言う声も聞こえます。

GAPはあくまで農業生産の工程が安全に管理され行われていることの証明であり、良い農産物であることの保証になるものです。よって価格を高くして販売するための手段ではありません。

しかし、考え方を変えてみると、日本のマーケットは人口減少に伴い縮小傾向にあります。しかし世界のマーケットは人口増加により拡大傾向にあります。その中で主要な大手企業はGAPを取引条件の1つに据えています…。世界の市場に目を向けるとGAPは必須な状況になりつつあります。

(4) GAPの柱

GAPをすることは、以下の5点について管理をすることです。

① 食品安全



農産物に直接関わる危害軽減につながるルールを作り、管理することを指します。具体的には農薬の残留や保管等による交差汚染防止。作業者による農産物汚染防止。農機具の取扱いや、収穫物保管のルール作り。また栽培する種苗の管理など生産する農産物の安全確保に向けた管理を意味します。

② 環境保全



持続可能な農業生産を実現するため、周辺環境への負荷を軽減するための管理手法を指します。具体的には畑地等の土壌環境の管理(土壌分析や適正な量の施肥など)や水管理(灌水やそれ関わる水質について、排水設備など)、光熱費の使用状況の把握と不必要な使用の制限。周辺環境のモニタリングなど、環境と調和した農業体系の実現を目指します。

③ 労働安全



農作業事故防止など安全に作業を行う環境作りを指します。作業ごとのリスクの把握や、作業免許の確認や作業における教育訓練の実施。救急箱の設置など応急処置に関する理解を深める取り組みなど、事故無く作業できる環境、そして何か起きたときの適切な対応についてのルール作りが求められています。

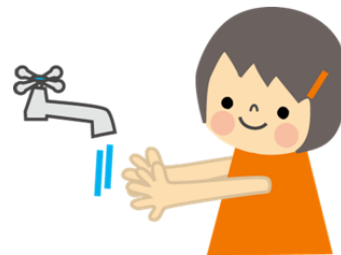
④人権保護

労働時間や、心身共に良い状態で働くことができる環境作りを指します。具体的には衛生的な職場環境の確保や、清潔なトイレ・手洗い場の設置と維持。労働時間や雇用側とのコミュニケーションの場を設けることなどが求められます。

⑤農業経営管理

自らの管理する農場運営全体の管理を指します。具体的には圃場・施設や栽培管理に関わる情報が分かる地図を作成することや、作業記録・在庫管理記録をつけること、さらに在庫管理と併せて収益性の検証と今後の対応などマスバランスに関する面についても確認します。

手洗い励行



作業前は必ず手を洗いましょう！